

災害教訓を踏まえた地域防災まちづくりに関する研究

社会基盤デザイン学科 近藤伸也, 山岡暁, 松本美紀

◆はじめに

本研究では、栃木市吹上地区において平成27年関東・東北豪雨災害を踏まえた地域防災まちづくりに向けた住民主体の避難所運営マニュアル(案)を提案する。

栃木市避難所運営マニュアル
(職員向け)

比較分析

奈良県黒滝村の避難所運営マニュアル
(住民および職員向け)

◆分析の視点

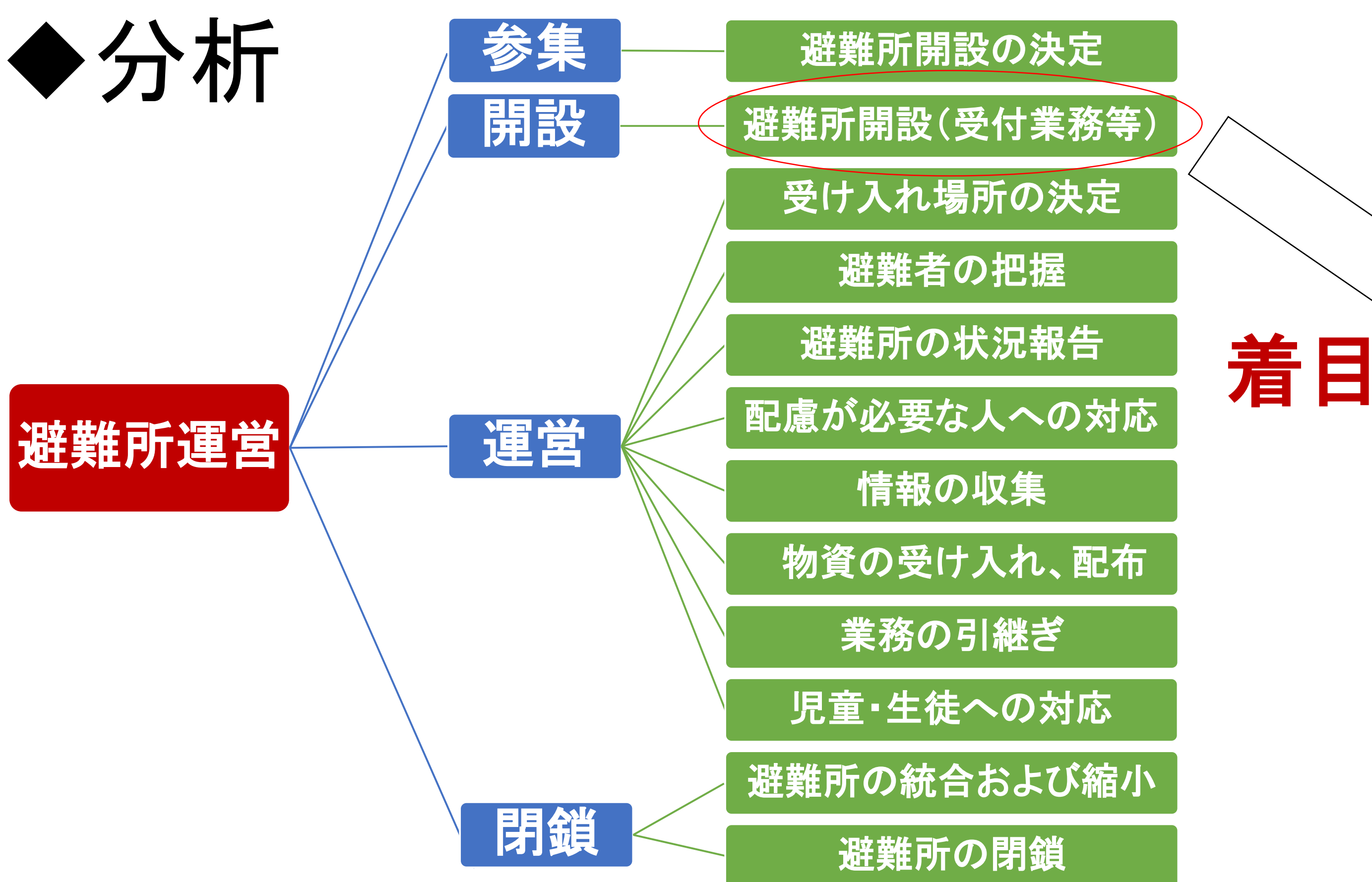
タイムライン

災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時の発生する状況を想定と共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して防災行動と実施主体を時系列で整理した計画

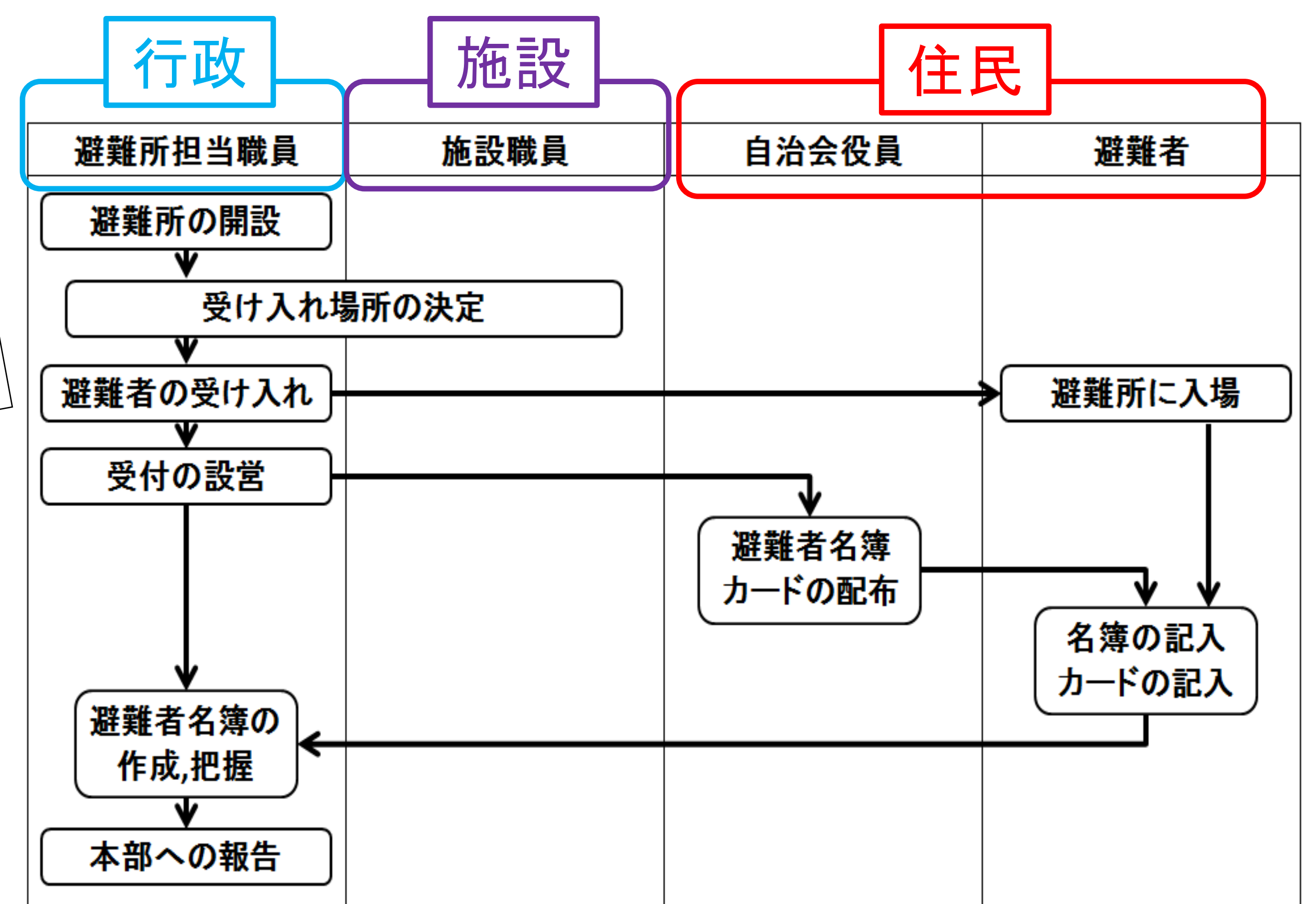
業務フロー

業務プロセス(業務の手順)を目で見える形にして、自分たちが行う業務を俯瞰的に見ることが可能

◆分析

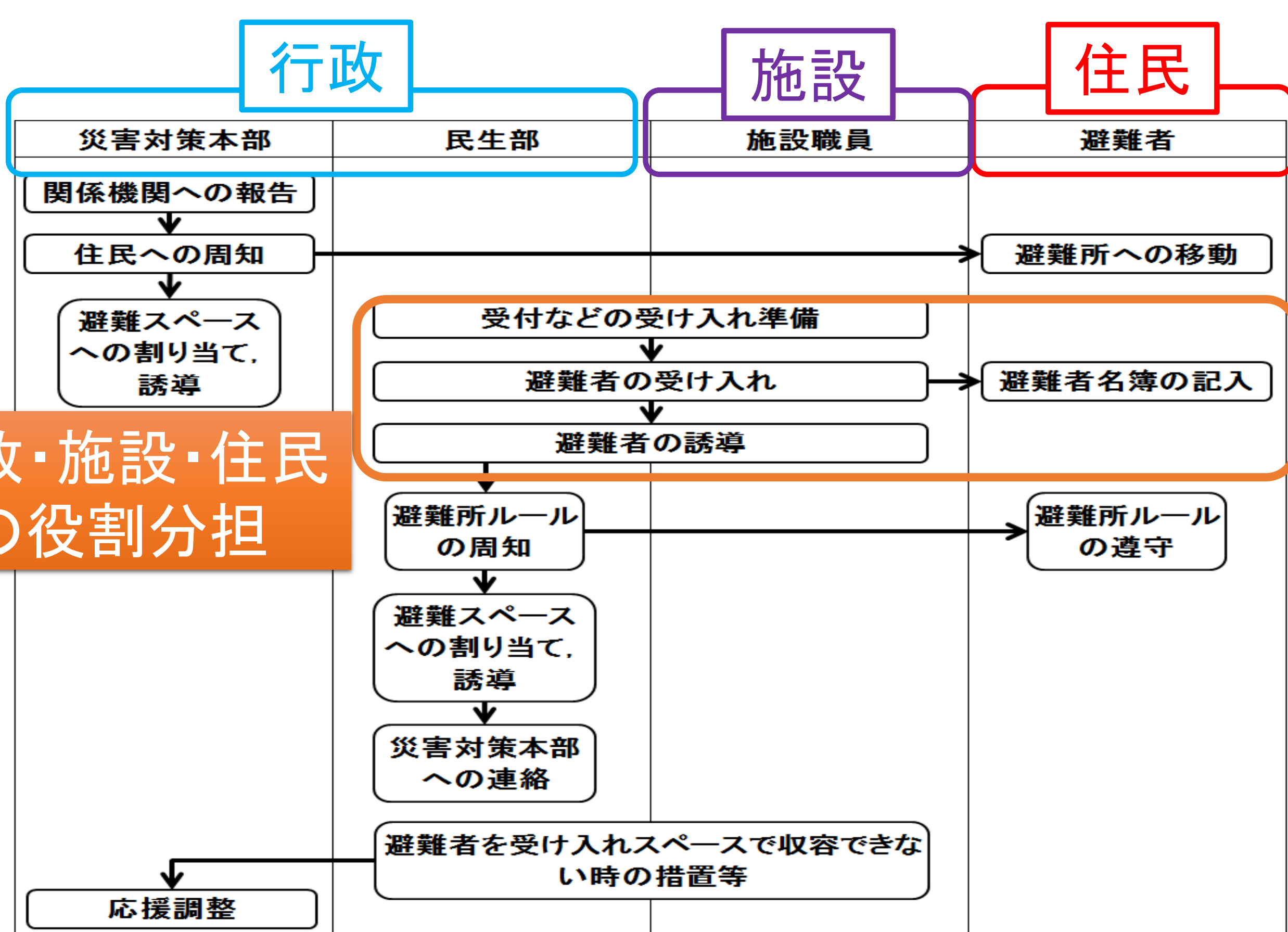


栃木市避難所運営業務WBS図



受付業務：栃木市の現状

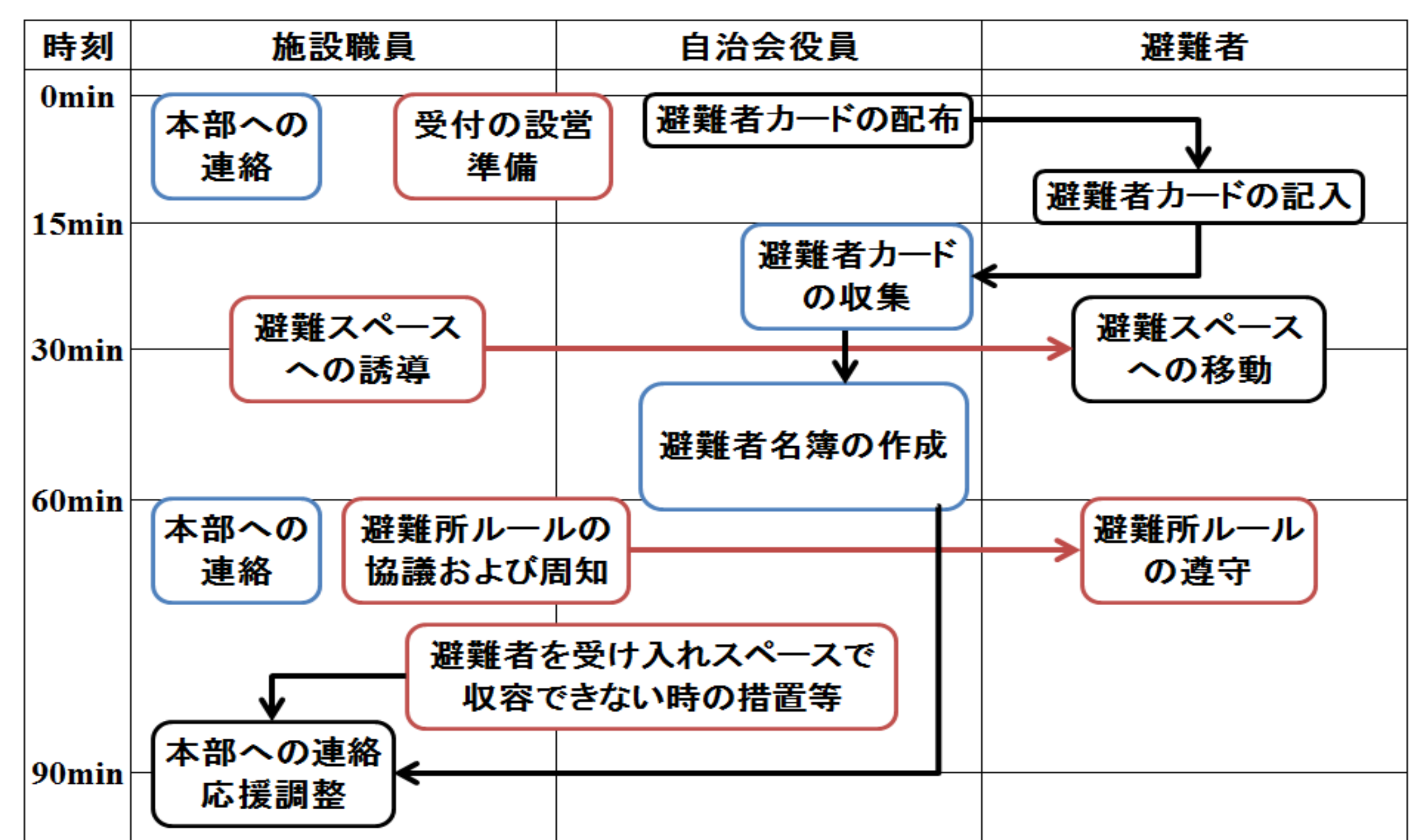
改訂



受付業務：黒滝村

導入

導入



受付業務：改訂案

住民主体の避難所運営マニュアル(案)の方針

- 住民主体の避難所運営にするため、施設職員、自治会役員、避難者のみの業務フローで流れを示す。
- 業務フローにタイムラインを加え、その時間を目安に誰が何の業務を行えばよいか分かるようにする。

◆まとめ

- タイムラインを活用し、既存のマニュアルより業務の流れを「いつ」「誰が」「何をするか」を明確化できた。
- 住民ができる業務をフローにより明示できた。